

救急臨床現場で役立つ新聞形式デジタルアーカイブの開発 ～二次救急看護師のための研修以外での人材育成～

Development of newspaper-style digital archive useful in emergency clinical settings
～Toward training for secondary emergency nurses without ordinary face-to-face meetings～

生田正美^{1,2}
Masami IKUTA

松葉龍一²
Ryuichi MATSUBA

鈴木克明²
Katsuaki SUZUKI

喜多敏博²
Toshihiro KITA

神奈川県立足柄上病院¹ 熊本大学教授システム学研究センター²

1 Kanagawa Prefectural Ashigarakami Hospital

2 Research Center for Instructional Systems, Kumamoto University

<あらまし>二次救急医療施設で勤務する看護師は、限られた人員や資源の中で、迅速・的確に患者の状況をアセスメントすることが求められる。そのため、救急現場や自己学習の場で活用できる新聞デジタルアーカイブを開発した。この新聞デジタルアーカイブを活用することによって、研修以外の人材育成、ナレッジマネジメントに相当すると考える。

<キーワード> デジタルアーカイブ 新聞 救急看護教育 人材育成 ナレッジマネジメント

1. 研究の背景と目的

二次救急医療施設で勤務する看護師は三次救急医療施設に比べ資源も人員も限られた環境下にある。救急看護は看護師個々の知識やスキルが患者の生命に直結する場面が多く存在する。

救急患者への看護ケアは、限られた時間枠でスピーディー（観察場面における救急患者の処置室滞在時間は平均 29.6 分であった）に提供されていた（坂口ほか 2005）と述べているように、限られた時間の中で、より早い段階において臨床判断を要することがわかり、迅速・的確に患者の状況をアセスメントすることが求められる。

そこで病態生理や看護の知識を得ることを目的に対面型学習会と新聞形式の資料を発行した学習会を7年間で40回開催した。（生田 2014）

しかし、この学習会のデメリットとして、交代勤務のため全員参加できない、長年の開催で、過去の新聞の利活用が不十分、新聞のネタを取り上げつくしたことが挙げられた。

そこで、生田ほか（2019）に基づき、蓄積された新聞形式の資料を必要な時に必要な情報が利活用できるデジタルアーカイブを開発した。

2. 新聞デジタルアーカイブの概要

新聞形式の資料は A4 サイズ 1 枚で完結しているが、Moodle を使用しデジタルアーカイブを開発したため、A4 サイズ 1 枚にこだわることなく、情報を集約した。

画面上部には検索窓、左側には新聞記事の一覧、中央部分には新聞内容を表示し、右側には看護の

共有、新聞リクエストコーナー、チャットコーナー、使用ガイドを設置し、何度も使用するユーザーが使いやすいようレイアウトした。

デジタルアーカイブにすることによって、新聞をいつでもどこでも閲覧することができる。救急車が到着するまでの 10 分間で疾患や看護の確認、必要物品の準備等救急現場での活用や、自宅学習での活用等を想定している。更に、看護師同士の学習を共有する場、情報を収集する場としての活用を想定した。

3. 新聞デジタルアーカイブの特徴

作成した新聞デジタルアーカイブの特徴を以下に記す。

①検索機能

キーワードを記入し読みたい新聞を検索できる。該当する新聞のリストが表示されるためその中から選択すると新聞が開く。

Moodle の「グローバル検索（シンプル検索）」の機能は、外部エンジンをインストールしなくても利用できる検索ツールであり、Moodle サイトのあらゆる場所を検索できる。設定すると検索BOXが設置される。新聞を1枚ずつPDFにした後ファイル添付し、添付した新聞にメタデータとして疾患の概要を記入、更に検索機能で使用できるようにキーワードを設定した。

②用語集の作成

難しい専門用語をあえて調べなくても、説明が表示されるようにした。

活動又はリソースを追加し用語集を選択し「救急看護の用語集」とした。「新しいエントリを追

加する」から用語とその説明を入力後、「オートリンク」中の「このエントリを自動でリンクさせる」にチェックを入れ保存。用語集に登録した用語と教材の本文にリンクを張るには、管理 >> 設定 >> フィルタ >> 「用語集オートリンク」の右横にある「目のマーク」をクリックして有効にする、と設定した。

③オフライン利用に対応

オフラインに対応することで、新聞デジタルアーカイブをいつでもどこでも閲覧できる環境を整えた。モバイルアプリ「Moodle モバイル」は、オフラインであってもコースの内容を閲覧することが可能である。コースの活動を表示し、オフラインで使用するため資料をダウンロードできるためオフライン状態でも、内容が閲覧できる。

④事例を共有する

日々の看護実践の中で、救急看護師間で事例や看護を共有する。新聞形式での共有は難しい、ハードルが高いという意見があったため、形式は自由とした。

フォーラム活動モジュールを追加し、非同期の掲示板を設置した。

⑤学びは救急現場にある！新聞リクエストコーナー

日々の看護実践の中で、疑問に思ったこと、知りたいこと、悩んだこと等に対し、新聞リクエストコーナーを作成した。

フォーラム活動モジュールを追加し、非同期の掲示板を設置した。

⑥学習者⇄教師コーナー

新聞リクエストコーナーはフォーラム活動モジュールとしたため、学習者が投稿した内容をすべての利用者が閲覧できる。そのため、皆に見られてしまい恥ずかしい、こんなことも知らないのかと思われたくない、という意見があったため、学習者⇄教師コーナーを作成し、投稿が教師権限以外の他者に閲覧できないよう課題活動モジュールを使用し設定した。

⑦チャットコーナー

日常の疑問・質問を遠隔同期型で意見交換を行う場を設定した。

⑧活用ガイド

活用場面を想定し活用ガイドを作成した。

4. 考察

新聞形式の資料は、日々の看護実践を、新聞形式に可視化することによって、看護の言葉にならない暗黙知を形式知に変換し、情報を持っている人から、欲しい人へと伝達する手段として活用していた。ローゼンバーグが定義している「同じような関心とニーズを持つ人々や組織で構成されるコミュニティの中で（あるいはそうしたコミュニティ間で）、価

値ある情報や専門知識、洞察などを生み出し、保管し、共有するためのサポートシステムである」（鈴木 2015、p. 131-132）という位置づけであり、情報で学ぶナレッジマネジメントの要素を含んでいる。

新聞を閲覧して学ぶ教師→学習者の一方方向の学習だけではなく、デジタルアーカイブ上で学習者同士が事例を共有しフォーラムで意見交換することで、学習者同士での学びの促進につながるとも考える。そしてデジタルアーカイブの場を新たな情報収集の場としてとらえ、そこから新しい学習会の題材を抽出し新聞を作成していくことで、更なる学習に発展すると考える。

救急現場の看護師にとって、ナレッジマネジメントの効果を得ること、学習者同士で学びあえる場となること、現場の看護師から情報を得る場となること、として新聞デジタルアーカイブが活用されていくことは研修以外の人材育成を実現することに繋がると考える。

5. 今後の課題

デジタルアーカイブは、開発し、ただそこにあるだけでは活用されない。いかに活用してもらえるかを考え学習デザインを再構築していく必要がある。

例えば、新しい新聞を随時発行していくこと、新しい新聞を発行した場合、目につきやすい一番上位に設置する、さらに一斉メールでお知らせをする、新聞リクエストに素早く対応する、学習者同士が気軽に情報を共有する場になるようにフォーラムの工夫をすることなど、開発した救急外来新聞デジタルアーカイブが十分に利活用される学習デザインづくり、学習者同士が事例を共有し合える仕組みづくりを考えていくことが今後の課題である。

参考文献

- 坂口桃子, 作田裕美, 百田武司, 荒井蝶子 (2005) 救急初療における看護の機能と役割 III—看護師の行動と看護ケアの提供様式の特徴から—。滋賀医科大学看護学ジャーナル, 3(1), 25-32,
- 生田正美 (2014) スタッフの学習意欲が高まる救急外来新聞 日総研出版
- 生田正美・松葉龍一・鈴木克明・喜多敏博 (2019. 9) 新聞形式を用いたデジタルアーカイブ教材の開発計画—二次救急看護師のための研修以外での人材育成を実現する。日本教育工学会第35回全国大会（名古屋国際会議場）発表論文集, 557-558 論文
- 鈴木克明 (2015) 研修設計マニュアル 北大路書房 p131- 132